

弓 道 部

高橋 和久

弓道部創設から昭和52年までの出来事については、大塚嘉則先生が「千葉大学医学部百周年記念誌（昭和53年1月10日発行）」に「弓道部」として記載されている。このため、本誌には大塚先生の文章の要約を述べ、主として昭和53年から平成21年までの32年間について記すこととする。参考とした資料は、千葉大学医学部弓道部発行の「道場設立60周年記念一如（昭和63年12月20日発行）」、「道場設立70周年記念一如（平成10年2月発行）」および「一如堂設立80周年記念誌一如（平成20年7月発行）」である。

大塚嘉則先生著 千葉大学医学部百周年記念誌 「弓道部」の要約（一部高橋変更加筆）

千葉大学医学部弓道部の歴史は古く、明治の頃にまで遡るようであるが、現在はその記録が残っていないためその源は不明である。また、部の歴史には千葉医専から千葉医科大学に昇格した移行期と第二次大戦末期から戦後しばらくの間の2回にわたる中断がある。

(1) 弓道場設立以前（医専時代）

この時代は大正9年卒の益子民和先生にまで遡ることができるに過ぎない。部長は法医学の高田義一郎教授であり、師範は塚本直清師であった。射場は現在の弓道場の上、七天王塚の椎の木の下にあり、後に師範となられた大木賢三範士は塚本師範の門弟であり、しばしば道場を訪れていた。高田部長の後任は眼科学の伊藤弥恵治教授であった。

(2) 新弓道場設立より終戦まで（医科大学時代）

大正13年に千葉医科大学第2期生として入学した森義雄先生は大学に剣道と柔道を合わせた武道部を設立し、その後弓道部を含めた武道部とした。初代部長には病理学の石橋松蔵教授にご就任いただき、新たな師範として大平射佛範士を迎えた。しかし、大学には弓道場がなかったため、大平師範が門弟であった名古屋の大日本陶器社長の広瀬一如範士に相談され、広瀬範士が千葉医科大学に弓道場をご寄附下さることとなった。これらの経過をまとめるにあたり、学生部長の松村泰教授が大いに力を尽くされた。かくして現在の地に

間口六間の本格的な弓道場が完成し、昭和2年9月23日盛大な落成式が行われた。新しい弓道場は広瀬一如範士を記念して「一如堂」と呼ばれることとなった。大平射佛師範は道場の額に今も残る「大尖光」「五神五到」などの壮大な弓道感を指導された（写真1、2）。戦前の弓道部は昭和12年頃に全盛時代をむかえたが、昭和17年9月には太平洋戦争の激化による運動部解散のため弓道部もその後自然に消滅していった。昭和18年、松村部長は大使館付参事官として南京へ行かれたため、小児科の詫摩武人教授が弓道部長となられた。昭和20年の終戦直前には、軍の部隊使用に弓道場も当てられ、塚は炊事場と化したまま終戦を迎えた。



写真1,2 大平射佛範士の筆による「大尖光」「五神五到」の額

(3) 戦後の弓道部（千葉大学医学部弓道部）

新制千葉大学において昭和32年5月、千葉大学弓道部が稲毛の教養課程に誕生した。顧問は国文学の緒方惟精教授で、この年の12月に大木賢三教士を師範に迎えた。昭和33年、大塚嘉則先生は医学進学課程に入学し弓道部に加わり、翌34年には部長を務め、千葉大学弓道部発展の基礎を築いた。昭和35年、大塚先生は亥鼻地区の専門課程に進み、医学部弓道同好会を設立した。このような折に生理学の福田篤郎教授が戦前の弓道部員であったことを知り、ご相談に伺い、弓道部の復興、弓道場の再建のため、大きなご尽力を頂いた。昭和36年、弓道同好会は福田篤郎教授を部長

にお願いし、正式に医学部弓道部に昇格した。師範は引き続いて全学とともに大木賢三先生を迎えることとなった。昭和36年4月25日、時の谷川久治医学部長は弓道場および柔剣道場の一括復興を決定された。修復工事には千葉市の三和工務店があたったが、医学部のほか薬学部および全学の弓道部員が矢道の整備などに力を尽した。昭和37年6月7日、第1回関東医科学生弓道大会が、復興になった一如堂において行われた。昭和38年9月8日、大木賢三先生範士昇格記念射会が一如堂にて行われた。昭和42年10月15日には道場設立40周年記念射会が開かれた。昭和43年11月には慈恵戦が復活し、翌44年9月には三医大戦（千葉、信州、群馬）が始まり、昭和45年10月には福島医大が加わり四医大戦となった。昭和45年11月、第1回三医大戦（千葉大、慈恵の戦前の三医大戦の復活）が行われた。昭和46年9月10日、病氣療養中であった大木師範は及川勝己千葉県弓道連盟理事を次の師範に推挙された。昭和47年11月19日、第3回関東看護学生弓道大会（看学戦）が千葉、慶應、群馬、東大の4校で行われた。昭和48年、高橋は主将に就任したが、各大会での成績はあまり振るわなかった記憶がある。松村名誉教授は昭和48年6月9日、逝去された。道場玄関の「一如堂」と揮毫された木の額が遺筆となった。同年7月22日、松村名誉教授追悼射会が行われ、これを機に「松村杯」が設けられた。この年の12月には福田部長がご病気のため退官されることとなり、後任部長を整形外科の井上駿一教授にお願いし快諾を得た。昭和49年9月、部誌発行の企画が出され、翌昭和50年9月1日、部誌「一如」創刊号が刊行され、特集は「戦前の弓道部」とされた。この年の7月、千葉大学看護学部が開学している。8月4日、大木賢三範士が逝去された。この年の9月11日、吉田英生先生（現小児外科学教授）が新主将に就任している。昭和52年7月24日には道場設立50周年記念射会兼第5回松村杯が行われた。

昭和53年から平成9年までの弓道部

今回、「千葉大学医学部135周年記念誌」の「弓道部」の項を依頼された際、いささか困惑を覚えた。昭和51年の卒業以来、2年間の市中病院勤務と留学期間を除き、ほぼこの亥鼻に生活した身ではあるが、弓道部との関わりは学生諸君との交流に限られており、その歩みを詳細に知っているわけではな

い。正確を欠く記載や重要事項の欠落など不十分な点もあると思うが、現在弓道部部长を拝命している立場もあり、記載させて頂いた。

幸いなことに、前述のごとく千葉大学医学部弓道部発行の資料があり、これらを参考にさせて頂いた。特に事項の記載は「道場設立70周年記念一如」の岩田剛和先生、水流京子先生による「弓道部及び弓道場の歴史」および「一如堂設立80周年記念誌一如」の宮下直也先生、石川賢太郎先生、松村琢磨先生、菊池賢先生による「過去十年間の弓道部史」から抜粋、加筆させて頂いた。

昭和53年、及川勝己範士のご健康がすぐれないため、及川先生から山崎新蔵先生をご紹介いただき師範となって頂いた。この年の5月27日から、毎月月例会が開かれることとなった。この頃、弓道部の成績は良好に推移している。11月5日の第34回関東大会では団体2位に入賞した。また、11月12日の第9回三医大戦では団体優勝をしている。昭和54年11月3日の第36回関東大会では団体2位、11月11日の三医大戦では団体優勝している。昭和55年4月27日の第12回五医大戦では男子、女子ともに団体優勝をたしている。昭和55年7月26-29日、千葉大学が主管で第23回東医体が天台弓道場にて行われた。11月9日の第11回三医大戦では団体優勝をしている。昭和56年5月31日の第39回関東大会では団体2位となった。また、8月1-3日に、東京医科歯科大学の主管にて明治神宮至誠館にて行われた、第24回東医体では120射63中という成績で団体戦3位となった。

昭和57年頃から看護学校の部員も増え、「医学部弓道部看学主将」ということが意識されはじめた。昭和58年2月道場の床と屋根の張り替えが行われる。昭和59年7月3日、着色した道着が完成し、公式には黄色の道着、個人用には希望により桃色の道着が作成された。昭和60年5月、水色の道着が製作された。昭和60年10月10日、第10回もみじ会（医学部女子の試合）が開催され、17年ぶりに医学部女子部員として入部した2名が参加した。昭和61年4月21日、戦後の初代部長、福田篤郎名誉教授がご逝去された。昭和62年8月30日、道場設立60周年記念射会・祝賀会が開催された。9月21日、弓道部部长井上駿一教授が肝細胞癌のため、57歳でお亡くなりになられた。翌25日には通夜、26日には告別式が行われた。11月7日、井上教授追悼射会（第1回井上杯）が、故井上教授夫人幸子様のご出席のもとに行われた。井上教授の後任として昭和63年5月21日、守屋秀繁先生が整形外科教授となられ、新しい弓道

部部長にご就任頂いた。12月20日、「道場設立60周年記念一如」が完成した。

昭和64年1月7日、昭和天皇が崩御し、1月8日、平成元年と改元された。平成元年3月31日、第1回看学杯が行われた。6月4日、千葉大学主管にて第55回関東大会が天台弓道場にて行われた。この大会で初めて林初男先生がお出でになった（写真3）。その後、山崎新蔵師範の健康がすぐれず、一如堂に来られなくなり、代わって林先生がご指導下さるようになった。平成4年には看護学部2年生が7人入部した。看護学部生は昭和60年卒の遠藤（旧姓酒井）康江さんを筆頭にその後も多くが入部している。平成6年3月1日、紫の道着が完成した。3月27日、11年ぶりに一如会総会が行われ、菊地紀夫先生が新会長に就任した。平成6年4月から、医学部を含む千葉大学全体の教育制度改革が起こり、この年の入学者から医進課程の廃止、教養の講義の実質1年への短縮、夏休み時期の変更などが行われたため、練習開始時刻など部活動および運営上の問題が生じた。この頃、看護部員は看護学校中心であった時代から、全員看護学部部員となった。平成7年6月4日第67回関東大会にて団体戦2位となった。7月29－31日、第38回東医体団体6位に入賞、10月22日、第68回関東大会団体2位、また10月29日の第26回三医大戦では160射106中の成績で団体優勝を達成した。平成8年6月2日、第69回関東大会では団体戦3位に入賞した。9月25日、記録的な大雨のた



写真3. 現在の師範、林初男先生のお写真

め、連絡道路の野球場側で土砂崩れがあり、道場も倒木により軒が破損した。平成9年8月30日、一如堂設立70周年記念射会および祝賀会が行われた。

平成10年から平成21年までの弓道部

平成10年8月5－7日、千葉大学が主管で第41回東医体を東京武道館にて開催した。11月1日、第74回関東大会にて団体戦2位となった。平成11年6月13日、第75回関東大会に白道着に腕章をつけて臨み団体戦に優勝した。平成12年10月1日、三医大戦の団体戦において優勝した。11月5日、第78回関東大会において団体戦2位となった。平成13年5月13日、第79回関東大会にて団体戦3位となった。10月7日、三医大戦の団体戦にて優勝した。10月28日、第80回関東大会の団体戦で2位となった。平成15年7月30－8月1日、第46回東医体にて団体戦6位となった。10月26日、千葉大学が主管となり、第84回関東大会を明治神宮で開催した。平成16年10月24日、三医大戦の団体戦で優勝した。平成17年10月23日、三医大戦の団体戦にて優勝した。平成18年5月21日、第89回関東大会にて団体戦5位となったが、この時、白道着にて試合に臨んだ。10月21日、三医大戦の団体戦において優勝した。12月4－20日、道場の床、壁、雨戸などが修復された（写真4）。



写真4. 現在の一如堂

平成19年2月1日、19年間弓道部長をおつとめ頂いた守屋秀繁教授が退職されることとなり、最終講義をされた。この最終講義には弓道部員全員が出席し、先生の講義を拝聴した。5月15日、整形外科学准教授である高橋和久が第五代の弓道部長となった。7月1日、高橋は第四代の整形外科学教授に就任した。8月7－9日、千葉大学が主管し、第50回東医体を東京武道館にて開催した。9月17日、一如堂設立80周年記念式典が行われた。10月21日、三医大戦の団体戦にて優勝した。平成20年1月20日、高橋和久および平成19年10月16日に小児外科教授に就任した吉田英生先生の祝賀会が開かれた。8月3－

第5章 交友の広がり

5日、第51回東医体にて、27年ぶりの団体戦入賞となる3位となった。8月24日に、金沢大学の主管にて石川県立武道館にて行われた第42回全日本医科学学生体育大会王座決定戦では第4位となった。平成21年6月7日、第95回関東大会にて団体戦3位となり、15大会ぶりの入賞を果たした。11月14日、第34回紅葉会が千葉大学が主管となり東京武道館にて開催された。(写真5)は平成21年に在籍する弓道部員である。

おわりに

千葉大学医学部弓道部の歴史は「一如堂」とともに歩んだ歴史と言っても過言ではない。「一如堂」をご寄附頂いた広瀬一如範士、部発展のために、数々のご指導を賜った大平射佛範士をはじめとする歴代の師範、歴代の弓道部長、戦後多くの困難を乗り越えて弓道部を再興された大塚嘉則先生、および部の運営にたずさわった全ての方々に感謝を込めて稿をとじる。

(たかはし かずひさ)



写真5. 平成21年在籍の弓道部員

左から、4列目: 早川優香・渡辺知香・能川琴子・高田いつ奈・松井慎一郎・木下翔太郎・鈴木陽大・堀川貴史
山内陽介・田中貴大
3列目: 鈴木里実・平野瑤子・小谷野友里・小池瑞穂・田頭良介・柴田裕貴・石川絢一・佐久間崇文
荒川博明
2列目: 早坂知美・大内麻愉・室井歩・伊藤海青・浦崎智恵・八島聡美・高田純子・仲村千鶴
1列目: 山本雅・荒川さやか・石川賢太郎・宮下直也・鹿野幸平・畑敦・菊池賢・塚田喜子・川合祥子